



2022年10月14日

会社名 ベステラ株式会社

代表者名 代表取締役社長 吉野 炳樹

(コード番号：1433 東証プライム)

問合せ先 取締役企画部長 本田 豊

(TEL. 03-3630-5555)

クレーンレール測定ロボットによる クレーンレール測定サービスの提供開始について

当社は、本日開催の取締役会において、クレーン測定ロボットの開発完了と当ロボットを用いたシステムによるクレーンレール測定サービスの提供開始について、決議しましたので、下記の通りお知らせいたします。

1、事業開始の趣旨

当社は、「柔軟な発想と創造性、それを活かした技術力により地球環境に貢献します。」を理念に掲げ、つねに新しい技術を生み出し「安全を何よりも優先」「より早く、より安く、より安全に」を合言葉に、さらに安心を加えてお客様に提供することを規範として、解体更新時期を迎える全てのプラント設備に対して安全かつ効率的な解体技術を提供し続けることで、企業価値の向上を目指しております。

今回、2026年1月期を最終年度とする中期経営計画2025の「戦略4 .DXの推進」に基づき、主にプラント・工場設備に設置され重量物や部品の運搬等に用いられる天井クレーンの定期的な検査にデジタルを使い効率的に検査を行う「クレーン測定ロボット」の開発が完了したことから、新たなサービスとしてクレーンレール測定サービスの提供開始について決議しました。

2、新たな事業の概要

(1) 新たな事業の内容

当社は、日本の産業構造において老朽化が進み解体更新時期を迎えるプラント解体市場に対して、安全かつ適切で効率的な解体技術を提供しております。また、プラント・工場設備等の3次元点群データを取得しモデリングデータを提供する「3D計測サービス」を展開することで、総合的なプラント関連サービスの提供を推進しております。

当社が事業を展開する電力、製鉄、石油・石油化学工場等の大型プラントでは、天井クレーンといわれる重量物や部品の運搬等に用いる大型の軌道式クレーンが設置されております。その数は日本国内で約13万台（2020年12月31日現在、一般社団法人日本クレーン協会参照）設置されております。

プラント・工場設備に設置されているクレーンレールは、重量物を吊り上げた天井クレーンが頻繁に走行するため、長期の使用に伴い上下左右にうねり等の変異が生じ、放置すれば亀裂等が入り重大な事故につながる恐れがあります。

そのため、つり上げ荷重 0.5 t 以上のクレーンは、労働安全衛生法、クレーン等安全規則により、1 年及び 1 か月に 1 回の定期自主検査が義務付けられており、検査後の記録は 3 年間保存することとなっております。さらには、つり上げ荷重 3 t 以上のクレーンについては性能検査義務が付されており、クレーンを継続して使用する場合は 2 年毎に性能検査を受ける必要があります。

現行のクレーン検査は、検査を行う数日間は工場の稼働を完全に停止する必要がありました。また、作業員が天井クレーン上に上がって作業を行うため、作業員の安全性確保が難しい検査方法であり、安全性、効率性において有効な手段が求められております。

クレーン検査方法のデジタル技術による効率化、工数削減、安全性の向上を目的として、クレーン測定ロボット及びクレーン測定システムを株式会社イクシス（神奈川県川崎市 代表取締役：山崎文敬・狩野高志 共同代表）と共同開発し、実証実験が終了したことから、本格運用することとなりました。（株式会社イクシス詳細 <https://www.ixs.co.jp/>）

今回、新たに開発した技術は、レーザー光をロボットが受信してスパン測定・レール勾配・左右レールの水平差等の 3 次元座標の測定を可能とします。これにより、左右レールでの 3 次元位置測定が可能となり、従来の検査では分かりづらかった相対的な位置情報のデジタルデータの取得が可能となりました。また、内蔵されている複数のカメラにより、レール継目の食い違い・レール継目の隙間・ボルト類の劣化・細かい亀裂等も正確に発見することができます。これによりレール測定以外の付加価値を生み出すことが期待できます。従来時間のかかっていた測定データの帳票出力も専用ソフトウェアを開発、測定後即座にデータ化することが可能となりました。

今後、量産した本ロボット及びシステムを自社又はプラント・工場設備保有会社にサービス提供することで、検査の安全性、効率性が飛躍的に向上し、現場の安全管理、設備管理に貢献するものと考えております。さらに、株式会社イクシスの持つ独自の AI を活用したデータ解析サービスにより、インフラの予防保全・経年劣化の将来予測につなげ、プラント解体事業並びに測定事業の DX 化を推進してまいります。

（2）当該事業を担当する部門

事業本部 営業部計測課 3D 計測チームが担当いたします。

（3）当該事業の開始のために特別に支出する金額及び内容

本事業のロボットの開発費用として総額 36 百万円を研究開発費用として支出しております。当該費用は 2022 年 1 月期までに 27 百万円、2023 年 1 月期第 2 四半期までに 9 百万円支出しており、当該費用は計上済みであります。

3、日程

取締役会決議日 : 2022 年 10 月 14 日

事業開始日 : 2022 年 10 月 14 日

4、今後の見通し

当事業の当期連結業績予想に織り込み済みであり、その売上高、費用等は軽微であります。中長期的に当社の企業価値向上に資する事業と考えております。今後、開示すべき影響等が判明した場合は、速やかにお知らせいたします。

(参考) 当期連結業績予想 (2022年3月11日公表分) 及び前期連結実績

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
当期連結業績予想 2023年1月期	6,700	620	666	469
前期連結実績 2022年1月期	5,966	607	840	1,467

5、その他

■営業に関するお問い合わせ先

事業本部 営業部計測課 3D計測チーム
〒135-0023 東京都江東区平野三丁目2番6号
電話 : 03-6240-3317
メール : info@besterra.co.jp

以 上